



フォーライフ桃郷便り

発行所
毎日寿心社
世田谷区北島山7-8-11
TEL03-3300-1600

8月号

※感染症対策は十分に配慮しております

施設での行事およびイベント紹介

【2023年8月イベント予定】

- 16日 (水) 夏のスイカ割り! (3条)
- 23日 (水) 外食イベント (3条)
- 26日 (土) 生ギターで歌唱大会! (特養)
- 29日 (火) 夏のイベント (2条)
- 31日 (木) 誕生日会 (東3条)



【2023年9月イベント予定】

- 16日 (土) 生ギターで仮装&歌唱大会!
~抱腹絶倒コントもやります~ (DS)
- 17日 (日) 敬老会!! (施設行事)
- 25日 (月) 秋祭り (DS)

~ 施設からのお知らせ ~

敬老会開催のお知らせ

日時: 令和5年9月17日 午前10時~
場所: フォーライフ桃郷 デイサービスフロア
式典 式次第(予定)

1. 開会の挨拶
2. ご長寿表彰
3. お祝いの言葉(施設長より)
4. ご家族からのお祝いのメッセージ
5. ご利用者からのことば(ご長寿代表)
6. 閉会の挨拶

誠に心がけて、敬老会を開催させていただきます。



🍺 おうち時間 🎵

今年も暑い暑い夏の時期に突入しましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？
 僕はおうち時間が長い分、エアコンをフル稼働して部屋に籠って過ごしています。
 部屋が涼しい時点で快適ですが、夏のお供として必要なもの、最高の至福を味わうために重要なものは、やはりビールですね！！近所のコンビニやスーパーでは、スーパードライ、黒ラベル、エビス、プレミアムモルツなど手に入りますが、僕としてはやはりクラフトビールを呑みたいところ。出来立てのビールをグラウラーに汲んで帰るのもいいですが、最近は瓶ビールにはまっています！なぜかという、全国各地にある汲みにいけないビールが飲めるから！しかも、ビールによって瓶の柄（デザイン）が違うので、コレクションとしても楽しめるからです！

感染症と熱中症に注意しながら、夏を楽しく乗り切りましょー♪

生活相談員 橋本 駿



夏休みの家族旅行

コロナ感染症が2類から5類へ変更となり、今年の夏は過去のように旅行に出かける方が多くおられるのではないのでしょうか。自分もコロナ前は子供の夏休みに合わせてよく旅行に出掛けていました。我が家では都道府県名のくじを作り、子供が夏休みに入る前にくじ引きを行い、その夏何処に旅行に行くかを占うのが一大イベントでした。子供が小中学生の間には色々な所へ旅行に行きました。北は青森、南は鹿児島とそれはどれも思い出深い旅行でした。我が家の旅行のスタイルはまずクルマで行くことで、妻と運転を交代しながらのんびりと時間をかけて目的地に向かいます。途中、サービスエリアや道の駅に寄り道してその土地ならではのアイスを食べるのがお決まりでした。そんな旅行で一番思い出に残っているのが香川県です。香川県の何が？と聞かれるとそんなに説明は出来ませんが、新鮮な魚介類がたべられたり、こしのあるうどんが美味しかったり、近い所に小島（小豆島）があったりと、自分の興味があるものが盛りだくさんで、とても楽しかった思い出がありません。機会があればまた是非訪れたい県です。

さて、自粛期間も終わりこの夏休みは！と意気込んでいましたが、20歳になる娘に「今年は1人で岐阜県にいつてきまーす！」とつれないお返事をいただきました。この日常が今後も続いていくことを願いつつ来年は家族で旅行ができるかなと思う今日この頃です



栄養・調理課 高野 和彦

8/6(日) 納涼花火会 開催しました！！



夏の甲子園が開幕しました。この時期になると、白球を追いかけていた青春時代を思い出します。私の高校は、当時は強豪校でしたので、365日中350日くらいは部活があり、朝は5時過ぎに家を出て、夜は22時頃に帰宅するそんな毎日でした。もちろん土曜日や日曜日はずいぶん練習や試合があったので、部活を引退してから『関口宏のサンデーモーニング』を数年振りに観た時に、何故か目頭が熱くなったことを思い出します。

編集後記
高校野球

野球部時代を思い出すと大半は辛い経験で、今だと問題になるであろう、監督さんや先輩からの愛のムチも今となっては話のネタです。人に話しても信じられないようなアンビリバボーな出来事もたくさんありました。そんな3年間でしたが、私にとつてやはり高校野球を経験したことは本当に大きな財産であり、あの3年間のおかげで人としての器が多少は大きくなったかなと今では思っています。

あれから20年以上が経ちますが、高校野球を見ると当時の自分と重ね合わせてしまい、ついつい感情移入してしまいます。もう一度高校野球をやるかと言われたら全力で拒否しますが、高校野球が本当に素晴らしいということは今でも胸を張って言えます。

編集長 水上 健